

新しい時代の学習環境として少人数学級の実現を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校においても密集・密接・密閉のいわゆる三密を避ける環境整備が求められる新しい時代となった。また休校による影響などで様々な困難を抱えた子どもたちによりていねいに寄り添う教育活動で子どもたちの学校生活にゆとりを取り戻すことが重要になっている。

一方で、公立小・中学校の普通教室の平均面積は64㎡であり、現在の40人学級では、感染症予防のために児童・生徒間の十分な距離をとることが困難となっており、学校現場の大きな課題となっている。

すし詰め学級の解消を求める努力が長年続けられた結果、学級編成が見直され、平成3年には現在の40人学級が実現された。しかし平成23年に小学校1年生が1学級35人とされただけで少人数学級への環境整備は進んでいない。

今後、感染の拡大があっても必要な教育活動を継続して、子どもたちの学びを保障するためには、少人数学級により、児童・生徒間の十分な距離を保つこと共に、必要な教員を確保することが欠かせない。

よって、扶桑町議会は、国会及び政府に対し、感染予防と豊かな学校生活のために、国の責任と負担で、必要な教職員の配置を進め、少人数学級を実現するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年9月25日

衆議院議長	大島理森	殿
参議院議長	山東昭子	殿
内閣総理大臣	菅義偉	殿
文部科学大臣	萩生田光一	殿

愛知県丹羽郡扶桑町議会